

# 小池氏の実像は

# 2017 衆院選

## 外からの「安倍追い落とし」



池田伸彦撮影

40年生まれ。衆院議員を3期つとめ、経済企画庁長官、細川護国公の首相特別補佐、新党さきがけ代表代行などを歴任。福山大学客員教授。

元経済企画庁長官

田中 秀征さん

第2次安倍晋三政権が発足して5年弱、国民の間には政治や政党に対する不満や不信というマグマとにありま

がたまり、あふればかりになっていました。それを解消する勢力が現れば、プームを起す機運は確実に高まっていたのです。

このタイプの政治家は「借り」をつくりません。日本新党から自民党まで保守系のような政党に籍を置いた彼女は、細川護国、小沢一郎、小泉純一郎といった最も力のある政治家と連携しても、おもん

から、自由にモノが言えるし、しがらみがなく単騎出陣もできる。並の世襲や陣笠の政治家が何十人東になっても、小池さんにはかなわないでしょう。

保守党思想にはリベラルな考えを尊重する特徴もあります。吉田茂、鳩山一郎、石橋湛山など戦後保守の先覚者は、いずれも自身が第一級のリベラリストでした。リベラル系の民進党前議員を排除する希望の党は、その点でも戦後保守の流れとは異質に見えます。



グラフィック・田中和

昨夏、自民党東京都連を敵に見立て、瞬く間に都知事にかげあがった小池百合子氏。今年の都議選では地域政党「都民ファースト」を率いて都政を掌握し、今度は新党「希望の党」の代表として国政に関わる。小池氏は何がしたいのか。反安倍政権の「受け皿」の正体とは。

小池さんは世襲政治家ではなく、自力では上がった創業者型ではなく、最高指導者を目指してきた。その点では、田中角栄元首相以来の存在です。

そんな小池さんの決断を私は当初、大歓迎しました。憲法を軽んじ、大国主義に傾く安倍政権に対し、新党を率いて戦いを挑み、現在の自民党では衰えてしまった健全な保守、鮮烈で強靱な保守の潮流をよみがえらせることに期待したので

国民の多くは、現在の自民党による政治に不安を抱き、もう一つの健全な保守の流れを渴望しています。言い換えると、大国主義に陥らず、言論の自由を守りリベラルな意見にも耳を傾ける、真の意味で寛容な保守の政治勢力が求められているのです。しかし、その渴望は、どうやら今の希望の党では満たされそうもありません。

小池さんは世襲政治家ではなく、自力では上がった創業者型ではなく、最高指導者を目指してきた。その点では、田中角栄元首相以来の存在です。

戦後保守党思想の核心は、憲法

民進党の枝野幸男代表代行がリベラル系の議員を中心に新党「立憲民主党」を立ち上げましたが、期待は限定的でしょう。むしろ、岡田克也、江田憲司など自民党を源流とするメンバーで政党をつくらせてリベラル系を包含すれば、国民の渴望に比べて大化けする可能性があるのでないでしょうか。

戦後保守党思想の核心は、憲法

(聞き手・吉田貴文)